

皆さん、ご家族のご入学、まことにおめでとうございます。大学の役割は、教育と研究と社会貢献です。その大学にあって、最も大切なのは学生です。私たち瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の教職員は、そのことをしっかりと認識して、学園生活を支援し、学習環境を整えて、新入生をお迎えいたしました。

京都は1300年の歴史を持つ、しかも発展を続けている都市です。その背景には、隠岐から山陰を経て丹後王国に至る地域の歴史があります。その京都に京都造形芸術大学が存在することの大きな意味があります。

先ほどの入学式の式辞で述べましたが、この京都造形芸術大学のある京都が、世界遺産の町であり、世界からたくさんの人びとが京都を訪れるのは、京都盆地が第四紀後期の活断層運動で形成された盆地で、発達した分厚い堆積層の中に、豊富な地下水を含んでおり、世界的にも稀なこの良質の地下水が、京都の豊かな文化を生み出したという仕組みがあるからです。

しかし、一方、この盆地を形成した活断層は、ときに大地震を起こします。大学にとっては、学生さんたちが安心して学習できる環境を確保することが大切です。地震学者である私としては、学生のために安全な学習環境を整備するというのが第一の目標になります。安全を確保するためには出費を必要とします。安全の確保が予算を理由に後回しになる場合がありますが、その結果は、後悔しても間に合わないことになるのが分かっています。

京都造形芸術大学の本部があるキャンパスは、花折断層の南部にあります。断層の上盤に設置されており、その隆起運動による景観を十分に活用しています。この花折断層の活動履歴は、私自身が委員長をつとめた京都市活断層調査委員会を中心として調査され、地震発生の履歴はよく調べられています。その調査結果によると、最新の活動は、今から2800年前から1400年前の間、そのもう一つ前の活動は、今から7900年前から7000年前の間です。

次の地震が起こるとすれば、その規模はマグニチュード7.2です。これは1995年神戸の大地震とほぼ同じ規模です。今後30年の地震発生確率は、最大0.6%です。これは地震がしばらく起こらないと解釈される確率かもしれませんが、自然現象は突然起こるものであり、すぐには絶対に起こらないと言い切ることはできません。ただ、もしすぐに地震が起こるとすれば、小さい地震で済むという意味でもあります。いずれにしても、学生さんたちが安心して学習できるよう、学舎の耐震化を進めることが重要です。

同時に、学生の防災意識を養うことが重要です。そのためには、正確な知識が必要です。適当な時期に、花折断層の現地見学会を実施したいと思っています。ご家族の皆さまには、大学の外での生活環境に気を配っていただきたく存じます。学外での生活環境を、安心して学生の皆さんが学習に励めるように、整えてあげていただきたく存じます。

これからの学園生活の中で、大いにそれを楽しんでいただきたいと思うと同時に、学生の皆さんが社会性を身につけながら、卒業して社会人として活躍できる条件を整えていくというのが、これからの本学の重要な目標でもあります。この点に関しては、今日ほとくに保護者の皆さまと情報を共有しながら議論して、本学として取り組んでいきたいと思っています。私もこの蒼山会の活動に参加して、皆さま方と一緒に考えてまいる所存ですので、どうか、お子さまの成長を見守りながら、本学の活動に積極的なご意見を賜り、ご協力を賜りたく思っています。

あらためて、お子さまのご入学を心からお祝い申しあげ、本日の蒼山会への、多くの方々のご出席に、心から感謝いたします。

ありがとうございました。